

# Multi COM port controller

フリー版(GUIのみ利用可能)

(起動画面)



ソフトをダブルクリックすると上記の画面が表示されます。少なくとも1つ以上のCOMポートを認識していないと表示されません。

- ① 実行するテストシナリオを選択します。
- ② テストシナリオを選択後、このボタンでシナリオを実行します。
- ③ テストシナリオを途中で停止したい場合はこのボタンで停止します。
- ④ このボタンで、通信ログを保存します。
- ⑤ このボタンで、通信ログに表示されている内容を削除します。
- ⑥ ソフトを終了します。
- ⑦ ソフトのバージョンを表示します。

## シェアウェア版(GUI+CUI 利用可能)

```
¥MulCom>MulCom.exe sample.txt
Recieve monitor start 1
Recieve monitor start 2
['1': 1, '2': 2]
['@1,COM5,38400,0,CRLF']
['@2,COM6,38400,0,CRLF']
['S', '1', 'CH1,SEND1']
CH1,SEND1

['R', '2', 'CH1,SEND12345', 'C']
Append Que : 0
Append Que : 1 CH1,SEND1
Pop Que : CH1,SEND1
timeout 10
Exit timeout thread 2
Time out thread canceled , 2
Finish timeout thread

[NG] Receive Data CH1,SEND1 <-> CH1,SEND12345
Finish check thread

Check/Timeout threads are finished

['T', '2']
WAIT 2
['S', '2', 'CH2,SEND2']
CH2,SEND2
```

プロンプト> MulCom.exe <テストシナリオファイル>

シェアウェア版を購入した場合は、ライセンスファイルが送られます。

ライセンスファイルが実行ファイル内に存在していたら、コマンドラインで実行することができます。

コマンドラインで実行完了すると

    テストシナリオファイル名\_日時.log

という形式でログが保存されます。

(ログファイルの例)

```
0 | 1 | 2 | 3 |
1 | CH1,SEND1¥r¥n←
2 | CH1,SEND1←
3 | [NG] Receive Data 2←
4 | [ CH1,SEND1 <-> CH1,SEND12345 ]←
5 | CH2,SEND2¥r¥n←
6 | CH2,SEND2←
7 | [OK] Receive Data 1←
8 | [C/O]#,1,CH1,SEND3←
9 | [C/O]#,2,CH1,SEND1,C←
10 | [C/O]#,2,CH2,SEND4←
11 | [C/O]#,1,CH2,SEND4,C←
12 | [C/O]#END,←
13 | TEST ==[NG]==←
    EOF
```

# MulCom テストシナリオフォーマット説明

```
@1,COM5,38400,0,CRLF
@2,COM6,38400,0,CRLF
```

```
S:1:CH1,SEND1
R:2:CH1,SEND12345:C
T:2
```

```
S:2:CH2,SEND2
R:1:CH2,SEND2:C
T:5
```

```
#:1:CH1,SEND3
#:2:CH1,SEND1:C
#:2:CH2,SEND4
#:1:CH2,SEND4:C
#END
```

待機時間設定です。  
T:時間設定(秒)  
で設定してください。

コメント行です#:(シャープ セミコロン)の後に任意の文字を入力して下さい。

行の最初にシリアル通信の設定を記述してください

@{識別 No},{シリアルポート},{通信レート},{TO 時間},{区切りコード}

{識別 No}は数字を記入してください。

テストシナリオ中でシリアルポートの識別番号として使用します

{シリアルポート}は使用する COM 名を記載してください。(例 COM3 など)

{通信レート}は使用する通信レートを記入してください。通信対象と合わせておかないと正常に通信できません。

{TO 時間}は受信時のタイムアウト時間です。0 のままで問題ありません。

{区切りコード}通信の区切りとなるコードを記入してください。記入できるものは CR、CRLF、LF の 3 種類のみです。

送受信データです。:セミコロンで区切ったフォーマットとなっています。

{S/T}:{識別 No}:{送受信データ}:{C}

最初のキーワードは送信(S)、受信(R)を指定します。

識別 No は送受信対象のシリアルポートを@で指定した識別 No で記載してください。1 つの識別 No のみ指定できます。

送受信データとなる任意文字列を記載してください。:(セミコロン)は区切り文字として使用しているので指定できません。

最後の{C}は受信データチェック機能です。受信(先頭文字がRのとき)のみ指定可能です。